

福祉のしごと ふくしごと

誰もが住み慣れた地域で
安心して住み続けるために

みんなで創る 福祉のしごと



- 事業所職員による座談会

福祉のしごとの魅力

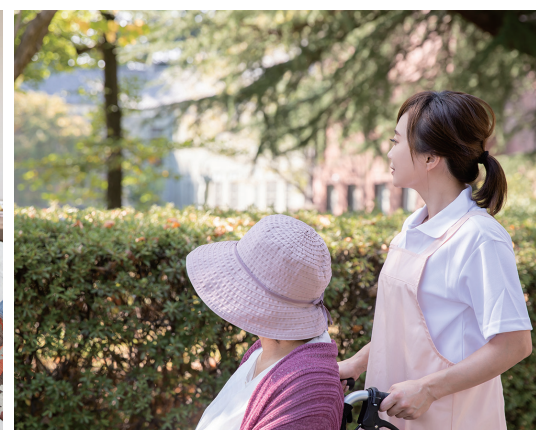
やりがい、魅力ある職場とは～運営・管理者の視点から

- データでみる世田谷

- 有識者からのメッセージ 鎌田 寛さん(医師・作家)

- 若者の声 ZOOM 対談 夏休み小・中・高校生福祉体験

- 異業種から見た福祉の仕事 くさか 里樹さん(漫画家)



福祉のしごとの魅力

やりがい、魅力ある職場とは
～運営・管理者の視点から

福祉のしごとは自立と尊厳を支える大変重要な仕事です。
福祉のしごとを「我がこと」として考えてみませんか。



かもはら もとみち
蒲原 基道さん

(社会福祉法人 友愛十字会理事長)

こいずみ たかお
小泉 孝夫さん

(医療法人 慈泉会 理事長 うなね杏霞苑施設長)

つぼい のぶこ
坪井 信子さん

(NPO法人 語らいの家代表理事)

ののむら たけし
野々村 武志さん

(社会福祉法人 武蔵野会 烏山福祉作業所長)

ふじい よしふみ
藤井 義文さん

(社会福祉法人 緑風会 エリザベート成城施設長)

うりゅう りつこ
進行 瓜生 律子

(世田谷区福祉人材育成・研修センター長)



蒲原 基道さん

あると思っております。
小泉 整形外科医として働く中で、高齢者が手術やりハビリを行い、改善後、自宅で生活するうちに機能が落ち、寝たきりに近い状態で過ごされている事例を少

現在の仕事に 就いたきっかけ

瓜生 運営・管理者の方々と、福祉のしごとのやりがい、魅力ある職場について意見交換を行いました。

蒲原 公務員として長年、福祉関係に従事し、令和2

年から、友愛十字会の理事長に就任しました。職務に従事しながら、国が作った制度がうまく機能しているかを知ることができ、現場で足りないことを自ら役所に伝えられるという良い効果があると思っております。

坪井 子育てが終わり、親の介護から福祉の世界を知り、その奥の深さに気付き、地域活動を始め、介護保険制度発足時にNPO法人を設立し、認知症グループホームやデイサービス、訪問介護、居宅介護支援事業所などを運営し、22年になります。

やりがい、 仕事の魅力

に他業種から特養、老健、保育園、障害施設、福祉の専門学校等を運営している法人に転職して、平成26年に徳島県から成城の特養開設を機に世田谷に異動になり、施設長をしています。4月からは区内特養施設長会会長をやっています。

蒲原 一番のやりがいは、顔が見える関係の中で、高齢者も障害のある方も、社会参加ややりたいことができるよう支援し、ご本人の喜びを、職員も直に実感できることが、他の仕事にな

い醍醐味です。管理者の仕事は、そのことを実体験できる仕掛けを作ることだと思えます。

小泉 在宅生活の復帰や継続を支援するため、単に足腰を鍛えるだけでなく、生活すべてがリハビリという

「ぼーとからすやま」の運営も行っております。

藤井 介護保険が始まる前

考えの下、試行錯誤しながら利用者にとっていいリハ



小泉 孝夫さん

いがやりがいにつながっています。

ピリヤレクリエーションを学び自分達で考え、自分達が理想とする施設を職員、地域の方々とともに作ってきたことが誇りです。

坪井 入居者と一緒に日常生活を送るので、入居者の笑顔が見られると職員は嬉しいと言います。毎日の食事にごこだわり、お誕生日会には、ご本人の希望のご馳走を皆さんといただいています。皆さんが自分らしく、楽しい毎日を過ごせるグループホームやデイサービスを目指しています。

野々村 事業所の在る地域の中で自分達ができること、強みとマイナス面等をクロス分析するSWOT分析を区内の法人職員80名で行い、法人の中期計画の基となる事業所の事業計画を作成しています。自分達で事業を作り上げている思

藤井 ご本人のニーズや嗜好を尊重し一人ひとりに相応しいケアを組立て、誰でもその方に相応しい対応ができるようになってきました。その方が望む「今までの暮らし」を施設でも継続できることを目指しています。利用者、家族、地域の方からの感謝の言葉はやりがいにつながります。

働きやすい職場とは

蒲原 ワークライフバランスや成長を実感できる資格取得支援、法人内外での発表の機会や、法人の理念「共に生きる」を共有し、コミュニケーションを大切にしています。介護ロボットを積極的に取入れ、利用者へのより良い支援を基本に効率的で働きやすい職場環境となり、働き方に上手くフィットし、上手く使いこなせるように、丁寧に微修

正を行っております。

小泉 常勤職員が出産・子育てや定年後に希望があれば、1日1時間でも本人が継続できる働き方を調整しながら作ってきました。皆さん即戦力なので非常に助かっています。人間関係や、やりがいを持って仕事ができる環境を構築してきました。地元の方を優先して採用しており、地域とのつながりを大切にしています。また、事故対応への法的な支援体制の構築も必要だと思っており、老健協会役員として対応しています。

坪井 入居者の重度化に対応するため、機械浴を取入れ、職員は腰痛予防になると喜んでいきます。管理者は、長く勤めている職員が多いので、職員が仕事に悩んでいる時とか辞めたいと言う時に、本人の話を丁寧に聞



坪井 信子さん

いています。職員同士の交流、入居者の皆さんの希望で続けてきた遠出や、地域の方々との交流がコロナ禍でできないのが残念です。

野々村 地域とのつながりを大切にしています。商店会に加入して施設の生産品販売や利用者のBBB（ブック・ボード・バンド）はイベントで演奏し、近所の子ども達に作業所を知ってもらい、利用者は表現活動を通して地域のつながりを体験しています。せたがや福祉区民学会では利用者が作業所の取組みを発表し、利用者や職員のやりがいにつながっています。

藤井 人材不足が続く中、介護、炊事、片付け、洗いや物など、業務を細かく切り分け、時間帯もピンポイントで募集することやノーリフティングケアで腰痛予防に力を入れています。利用者の喜びが職員のやりがいにつながるよう色々な取組みをしております。法人の方針、理念を明確にし、腰痛予防に施設全体で取組

み、採用や離職防止につながっています。

法人で取組んでいること

蒲原 年1回の法人の発表会や月1回、全施設長会議で各施設の取組みを共有しています。顔見知りの職員がいる同じ法人の施設の取組みを知ること、お互いに研鑽を積んでいます。時には参考となりそうな他法人の先駆的な取組みも学んでいます。

小泉 人材不足の中、ミヤンマーの外国人技能実習生を受け入れる準備をしていましたが、コロナ禍や政変で延期となっています。彼女らはご自身が暮らす集落を背負って来日してくるとのお話を伺い、異国での仕事や生活の体制をしっかりと整え、お互いに学びあえればと思い、来日を楽しみに準備をしています。

坪井 認知症の方の対応は本人の持っている能力を最

大限に活かせるように自立支援が大切で、職員には皆さんが安心して安全に暮らせるように見守りをするように伝えていきます。新入職員には認知症の理解や対応についてしっかり学べるよう研修は丁寧に行っています。

野々村 8050問題も地域の障害分野だけでなく、

高齢分野や関係機関などとも対応しています。地域共生社会で誰もが立寄れる居場所づくり、できれば障害当事者の方が運営に携われるのができないかと計画しています。知的障害の分野でICTの活用を検討も始めています。

藤井 自立支援から科学的なエビデンスにもとづいた介護の時代になり、専門的な知識・技術を学び、プロの仕事を進進しています。



野々村 武志さん

外国人雇用も積極的に進め、EPAで20人が働いており、12人が介護福祉士を取得しました。日本の習慣、言葉の壁もなくケアも日本人と同等で、大きな力になっていきます。

自立支援とは

蒲原 自立支援はADLなど機能の自立だけでなく尊厳とか、例えば孫と買い物へ行きたいなど、その方の夢を実現する、より高度な目標のために機能を向上させることも重要だと思えます。自身がやりたいことなど、支援していければいいと思います。

小泉 夜、寝る前にお風呂に入りたい、美味しい寿司や天ぷらが食べたいという利用者の声をどうしたら実現できるかをみんなで考え、実現できた時は達成感を覚え、その感覚を大切にしています。地域の方が参加される年一回の納涼祭は、昔を思い出しながら一緒に盆

踊りや屋台で好きな物、お酒をたしなむなど、地域の方と利用者や職員が一緒に楽しんでいきます。

坪井 持っている能力を落とさないという意味の自立支援を徹底してやっています。外に出たいという希望

をいつでも満たせるように、玄関に鍵はかけませんが、ご近所の方々にも見守っていただき事故はありません。デイサービスやグループホームでも必ず散歩を取り入れ、自由に出入りすることを、事前に家族に説明し、地域の中でご自身が望む生活を送ることができるようになっています。

野々村 法人の取組みとして、法人理念の「自分を愛するようになあなたの隣人を愛せ」を具体的な支援の実践につなげるために、理念研修と日々の利用者支援の失敗談も交えた内容で、施設長、職員が順番で「理念の語り」として行っています。自立支援については全事業所への実践事例の報告会を行い、理念・実践の共



藤井 義文さん

有を目指しています。

藤井 法人で5つのゼロ（おむつ、骨折、胃瘻、拘束、褥瘡）と4つの自立支援（認知症、リハビリ、口腔、看取り）に力を入れ、専門性を高める取組みを進め、職員募集では専門職としてのケア、考え方を発信し、この理念のもと、私はここで働きたいという職員が増えています。施設内で考

え方の共有や様々な方面への発信も必要と思います。

蒲原 人の暮らしに関わる、すごく貴重な体験をしながら人に喜んでもらう、感謝される経験が持てる仕事です。高齢、障害、子ども分野に限らず、サポートが必要な人達を、みんなで

伝えたいこと

サポートしていくという概念が大事です。色々な人達へのサポートが経験でき、また経験してほしい分野ということを認識していただき、社会人も是非、一度現場を覗いて欲しいです。

小泉 新しく介護の現場に入られる方々に対して、介護はやりがいのある仕事だと伝えたい。ただ単に日常のお世話をするのではなく、介護される方の人生を支えていく大切な仕事なので、「自分の将来を支える」ことに置き換え、是非、大勢の方々に興味をもっていただき、一緒に働いていただければと思います。

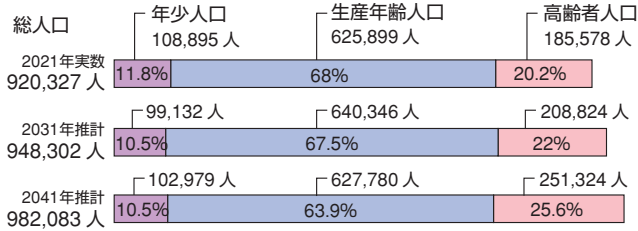
坪井 高齢者は益々、増えていきます。福祉は人が人を支える仕事だから、苦しいこともありますが、楽しいことは必ずあり、やっていて良かったと思うこともあるので、簡単に辞めないで続けて欲しいです。長く続ける中で、仕事の面白さがわかり、やりがいが出て、収入も増えます。

野々村 ご本人の「お酒が

データでみる世田谷

■世田谷区の概要

●年齢階層別人口（各年1月1日）



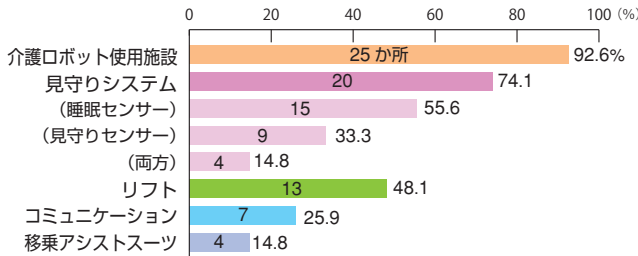
- 要支援・要介護認定者（65歳以上） 40,253人（令和3年4月）
- 認知症高齢者 24,090人（令和3年4月）
- 障害者（難病含む） 43,670人（令和2年4月）

●世田谷区の将来人口推計は、平成29年7月に実施以降、人口数は推計値を下回って推移し、さらに、コロナ禍により推計値と実績値の差が拡大傾向にあるため、令和3年7月に補正されました。

■介護ロボット・外国人人材に関する調査結果

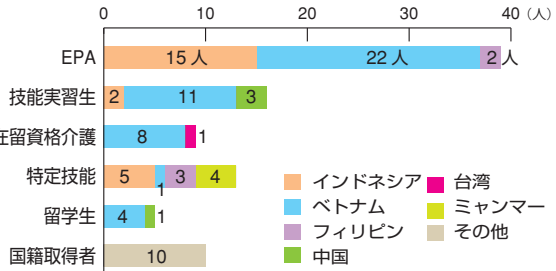
- 調査対象：区内特別養護老人ホーム 27か所（22法人）（地域密着型含）
令和2年12月 定員 2,045人（改修中施設含） 入所者 1,939人
利用率 96.7% 平均介護度 4.18 平均年齢 88.22歳
- 調査期間：令和3年1月20日～2月1日

□介護ロボットの導入状況



●介護ロボットは利用者の状態の維持・改善や支援が適切におこなわれているか等の確認にも有効です。

□外国人人材の状況



●外国人は27施設中18施設（66.7%）、92人が働いており、令和2年度調査に比べ、人数、制度種別、国籍が増えています。

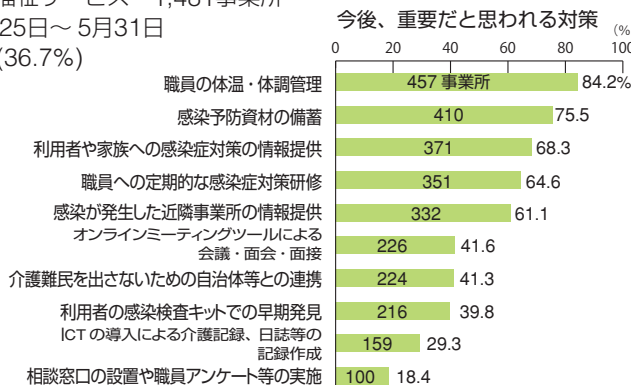
※EPA：「経済連携協定」、経済交流の一環として特例的に看護・介護人材の候補者を受け入れるもの

■新型コロナウイルス感染症 世田谷区福祉事業所調査結果

- 調査対象：高齢・障害福祉サービス 1,481事業所
- 調査期間：令和3年3月25日～5月31日
- 回答数：543事業所（36.7%）

回答者の主な声

- オンライン研修は今後も継続を希望
- 利用者や職員のメンタルヘルス研修を希望
- 感染発生情報が共有できる体制づくり



飲みたい、寿司屋へ行きたい」という気持ちや希望は大切にしたいと思います。法制度を理解の上、挑戦することは、利用者の自立を高めるのに大切です。時には、本人から危ないけどやりたいということも、まずはご本人の気持ちを受け入

れ、理解を深め、目の前のことだけでなく、そこから少し先のことにも挑戦する思いが大切だと思っています。藤井 施設には色々な経験、趣味、生活、価値観の方々が入所されますので、そういう方々に対応できないと高齢者施設も淘汰され

る時代が来ると思います。そういう危機感をもって今、色々な取組みを進めています。親を入所させたい施設、自分が入りたい施設、子どもを働かせたいと思えるような施設を目指しています。皆さん、お待ちして

て、それぞれの立場からお話しいただきました。是非、



瓜生 律子

福祉について、誰もが「我がごと」として考え、興味をもっていただければと思います。福祉の仕事の社会的な役割、地位の向上に一緒に取組んで参りたいと思っています。皆様ありがとうございます。引き続きよろしくお願いたします。

* 調査結果の詳細は研修センターホームページ（<http://www.setagaya-jinzai.jp>）をご覧ください。

医師であり、「がんばらない」「あきらめない」「いいかげんがいい」など多数の著書のある、鎌田實先生からメッセージをいただきました。



魅力的な福祉の現場

医師・作家 鎌田實

福祉や介護がゆきとどいてい
る町は、とても住みやすい町で
す。つまづいても、倒れても、
手が差し伸べられるような、あ
たたかくて優しい町を作りたい
と思い、信州で地域包括ケアに
取り組んできました。あっとい
う間に46年。大変な時もありま
したが、感謝されるうちに嬉し
くなって、こんなに長く続いて
しまいました。長い年月の間に
気がついた、大切なことをお話
します。

ぼくが長野県茅野市の病院に
赴任した1970年代、長野
県は、秋田県に次いで二番目に
脳卒中が多く、中でも茅野市は
一番の脳卒中多発地域でした。

「脳卒中で死な
ないために」と
いう健康作り運
動を始め、年に



地域で温かい笑顔で患者・家族の心の
ケアを含めた医療に携わっています。



イラクの難民キャンプや、国内の被災
地でも支援活動を続けています。

80回、地域の公民館へ出向いて
健康勉強会を行いました。その
結果、1990年には長野県男
性が日本一の平均寿命になり、
2010年には女性も日本一に
なったのです。この驚くべき結
果に、東京から大学の先生たち
が研究班を作って、なぜ平均寿
命日本一になったのかを科学的
に調査しました。

減塩運動をしたこと、野菜を
日本一食べるようになったこと、
「歩け歩け運動」などの効果も
評価されましたが、最も長寿に
影響したと考えられたのは、「生
きがい」だったのです。長野県
の高齢者の就労率は日本一。75
歳になっても、80歳になっても、
小規模の農業といった仕事を
もっています。これが「いきがい」

となり、平均寿命日本一の大き
な要因となっていました。いく
つになっても、働いてお金をも
らうことが、健康寿命に大きく
影響していることがわかったの
です。「生きがい」が健康に与え
る影響は、世界の研究でも明ら
かになっています。

マウントサイナイ大学の論文
では、人生の目的をしっかりと持
ち、人の役に立っている人は、
心臓病が少なく寿命が長い、と
いう調査結果が出ています。米
カーネギーメロン大学によると、
ボランティア活動や福祉活動し
ている高齢者は、していない高
齢者に比べて、高血圧リスクが
40%も少ないというデータがあ
ります。ブリガムヤング大学で
は、運動したり、お酒を減らし

たり、禁煙するよりも、社会と
のつながりを持っていることが、
健康に影響を及ぼしていると発
表されています。人の役に立ち、
感謝されるような仕事が、結果
として、自分の人生を豊かにし、
自分の存在理由が明確になり、
さらに健康寿命まで伸ばしてく
れることがわかってきたのです。

福祉の仕事は多様です。幼
い子どもから、子育て中の若い
お母さん、高齢者まで、幅広い
年齢層の方々が支援を必要とし
ています。だからこそ支援する
側も、若い世代から中高年まで
それぞれが、自分の人生経験に
照らし合わせながら支援できる
のが面白いところです。人生の
ベテランには、ベテランの味が
ある。若い介護者や福祉の専門
家は、言葉を越えてパワーを注
ぐことができたりします。福祉
のゆきとどいた町ができてくる
と、介護する側も癒されるよう
になってきます。福祉を必要と
する人も、福祉を仕事とする人
も、「この町でよかった」と思え
る、そんな世田谷になったらいい
なと思っています。

鎌田 實（かまた みのる） 東京医科歯科大学医学部卒業後、諏訪中央病院へ赴任。30代で院長となり赤字病院を再生。地域包括ケアの先駆けを作った。チェルノブイリ、イラクへの国際医療支援、全国被災地支援にも力を注ぐ。

現在、諏訪中央病院名誉院長、日本チェルノブイリ連帯基金理事長、日本イラクメディカルネット代表、地域包括ケア研究所所長。

Zoom
対談

せたがや福祉区民学会学生理事との対談

今年度から区民学会に学生理事が加わり、新たな取り組みが始まっています。二人に「福祉」への思いを伺いました。

大学で福祉学科を選んだ理由

佐藤 自分の長所を生かし、今後、需要がある仕事と考え福祉学科を選びました。大学受験で精神的にまいつっていた時に福祉に出会い、「大変なこと」を抱えている人達に寄り添える人になりたいと思いい、高校3年の3月に福祉に変更しました。



日本大学文理学部
社会福祉学科3年
成嶋 セルジオ正章さん

く大切に、受容性や価値があると改めて実感しています。大学は必要な知識や技術を勉強できる場だと思います。

成嶋 「人を幸せに」と学んでいますが、想像以上に規則、ルールなどに縛られています。他分野ともしっかり連携する必要があるし、福祉を学ぶ人達は福祉だけに、染まってほしくないと思います。

実習などを通して心境の変化は?

佐藤 大学では自己決定を尊重し、クライエントの利益最優先と学んでいますが、実習では、組織の一員として、患者の代弁者や様々な側面があり、理想だけを常に追いかめられないと感じています。

成嶋 ボランティアをしている区内の特養はアットホームで明るく、職員も生き生きとしていて、やり

がいをもち仕事にプライドを持っていると、感じられるので、そのことをもっと広めていければいいと思います。

将来の仕事について

佐藤 ソーシャルワーカーとして終末期医療や、精神保健福祉の分野にも関わりたいので、色々な方と出会い、勉強して、医療分野でキャリアを積んでいきたいです。

成嶋 福祉の資格や自分の強みを活かし、自動車やモバイルの企業で働き、福祉の認知度や地位を上げたい。福祉の仕事も視野に入りたいと、写真を通して社会を表現したいと考えています。

せたがや福祉区民学会学生理事として

佐藤 福祉は自身や周りの人もい



世田谷区
福祉人材育成・
研修センター
なかむらのぞみ
中村 希

つかは、関わるので、小・中・高校生のうちから、もっと気軽に福祉を学べるようにしたいと思っています。義務教育の先生の関わりも必要だと思っています。

成嶋 福祉以外の人との交流や、その視点を福祉の人が学ぶ企画、学生も働く人達にもプラスになるようなワークショップを行いたい。また、スポーツから共生社会を考え、世田谷の福祉施設の素晴らしさを知ってもらえる企画ができればなと思っています。

研修センター 区民学会に学生理事が加わり、新たな展開が期待できます。ありがとうございます。

福祉を学び気づいたこと

佐藤 私は福祉のことを全然知らずに入学しましたが、福祉はす



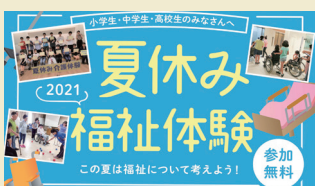
昭和女子大学
人間社会学部
福祉社会学科3年
佐藤 貴緒さん

夏休み小・中・高校生
福祉体験

7日間 14回実施 125名参加

新型コロナの緊急事態宣言のため、急遽 Zoom の開催となり、例年より参加者は少なくなりました。参加者からは、「動画やクイズで、わかりやすく楽しく学べた」「介護の素晴らしさ、相手への思いやりを感じる事ができた」「福祉の仕事のイメージが変わった」等々、好評でした。「でも、実際に体験したい」というのが皆の本音でした。

来年は是非、コロナが終息し実体験できますように!!



異業種から見た
福祉の仕事

介護の現場を丁寧に取材され、リアルに描かれた『ヘルプマン!』の作者、漫画家のくさか里樹さんからメッセージをいただきました。

介護と漫画家の仕事はそっくりなんです!

漫画家 くさか 里樹



漫画家は、読者に「どうやったらウケるかな」「元気になってもらいたいな」って、毎日知恵を絞っています。徹夜で絵を描くよりそっちが本業なんです。介護も同じ。肉体労働よりジジババと心を通わせるのが本業なんですって!



うまく描けなくて読者が無反応だとめっちゃ凹みます。自分が情けなくて、泣きながらやることもあるけど、喜んでもらえるともめっちゃ嬉しくて、こっちが元気になって、自信がついて、大袈裟に聞こえるかもしれませんが、生きる力がみなぎってくるんです。介護現場のヘルプマンたちも同じことを言います。



クリエイターの生みの苦しみてやつには必ず喜びがセットでついてきます。もうひとつオマケに、自分なりの人生哲学を知らず知らず身につけていきます。私が出会ったヘルプマンたちは「人生とは」「幸せとは」みたいな究極の哲学を、若くして、ごくごく自然に身につけていて、



ほんとにかっこいいんです。

介護の「K」は「クリエイター」のKなんです!

ところで、みなさんは映画を観ますか? 私は毎日一本は映画を観ます。誰もが感動のドラマを求めて、映画を観たり本や漫画を読んだりしますよね。みなさん、実は、介護現場にはそんな感動がゴロゴロしています。驚くべき感動のドラマを取材でいっぱい聞いて漫画に描いてきました。

介護の「K」は「感動」のKなんです!

悪いイメージばかりが先行する介護ですが、マイナスの思い込みにはひとつもいいことはありません。頭の中に居座る固定観念をひっくり返せば、新しい価値観が見つかるものです。

介護の「K」は「価値」のKなんです!

何もかもが一変しようとしている時代。

私は、介護は豊かな人と未来を育む源だと、心から信じています!



くさか里樹(くさかりき) 漫画家。高知県高岡郡日高村出身。高知市内の授産施設に勤務した後、1980年、『ひとつちがいのさしすせそ』でデビュー。2003年から『ヘルプマン!』執筆。2011年5月、『ヘルプマン!』で第40回日本漫画家協会賞大賞受賞。ペンネームは、出身地である日高村の旧地名「日下(くさか)」と、当時ファンであった俳優リック・ホイクからという。(『草刈り機』では、ありません。) <主な作品> 「ケイリン野郎」「ヘルプマン!」「永遠の都」他多数

世田谷区福祉人材育成・研修センター

研修センターは、福祉人材の確保・育成・定着支援を総合的に推進しています。福祉の仕事の入門講座やキャリアアップなどのさまざまな相談、専門性を高める研修も行っています。**福祉の仕事のご相談は、研修センターへお寄せください。**



社会福祉法人 世田谷区社会福祉事業団
世田谷区福祉人材育成・研修センター

〒156-0043 東京都世田谷区松原 6-37-10
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1階
電話 03-6379-4280 FAX 03-6379-4281
URL <http://www.setagaya-jinzai.jp>
受付時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15

アクセス

小田急線「梅ヶ丘」駅北口	徒歩	5分
小田急線「豪徳寺」駅	徒歩	8分
東急世田谷線「山下」駅	徒歩	14分
京王井の頭線「東松原」駅	徒歩	1分
小田急バス「松原」	徒歩	1分

